

第 11 戦予選で鈴木斗輝哉、第 12 戦予選で森山冬星が PP INDP では菅生に続いて KENTARO がダブル PP をゲット



クラス別に決勝を行うことから、これまでとは異なり金曜午後に公式予選を実施することとなった今大会の FIA-F4 選手権。その舞台となったオートボリスでは木曜には雨の影響を受けるセッションもあったほか、金曜午前に行われた OTG トレーニングもドライながらもかなり涼しいコンディションで走行が行われたが、午後 1 時からスタートした公式予選では一気に気温が上昇する中、ドライコンディションでのアタックが展開された。



■チャンピオンクラス予選



28 台が出走したチャンピオンクラス（CH クラス）は、オンタイムの午後 1 時ちょうどにコースインが開始された。

最初の計測ラップではポイントリーダーの佐藤樹が 1 分 55 秒台で首位に立つも、タイヤが温まった計測 2 周目から早くも激しい攻防が展開される。まずは最初に 2

周目を終えた佐藤が 1 分 53 秒 801 にトップタイムを押し上げるが、すぐさまこれを白崎稜が 1 分 53 秒 796 で更新。これを武藤雅奈が 1 分 53 秒 790 で上回ると、さらには鈴木斗輝哉が 1 分 53 秒 535 で逆転し、モニターのトップに躍り出る。

午後 1 時 07 分、3 周目を迎えた佐藤が 1 分 53 秒 768 とわずかにタイムを更新し、3 番手にポジションアップすると、白崎も 1 分 53 秒 790 へタイムアップ。すると、今度は森山冬星が 1 分 53 秒 545 を叩き出して 2 番手に飛び込んでくる。

この 3 周目、百瀬翔や新原光太郎らもタイムを上げ 6～7 番手につけることとなり、ここから更なるタイム更新が続くかに思われたが、予想以上に路気温が上昇した影響か、上位陣を中心にぱたりとタイムアップが止まってしまう。

周回を続ける各ドライバーながら、タイヤの消耗を懸念してか、タイム更新のできない状況に業を煮やしたドライバーたちの多くが、残り 7 分のあたりから次々とピットに戻っていくことに。

上位陣のほとんどの車両がピットに戻り、このままセッション終了かと思われた中で、唯一トップの鈴木斗輝哉が再度コースインをしたものの、結局セカンドベストの更新もならずピットへ帰還。

こうした状況のまま、午後 1 時 20 分にチェッカーが提示されることとなり、第 11 戦のポ



ールポジションは鈴木斗輝哉が獲得。2～3 番手に森山、佐藤が続き、4～6 番手には武藤、白崎、百瀬が入った。

また、セカンドベストタイムで決まる第 12 戦は森山が昨年 5 月の富士大会以来のポールポジションを奪うこととなり、白崎、佐藤が 2～3 番手に。4～6 番手には百瀬、武藤、洞地が入り、第 11 戦ポールシッターの鈴木斗輝哉は第 12 戦では 7 番手にとどまることとなった。

■インディペンデントクラス予選



16 台での戦いとなったインディペンデントクラス（INDP クラス）の予選も、オンタイムとなる午後 1 時 30 分からスタートとなった。

セッションが始まると、各車タイヤを温めつ

つ CH クラス同様、2 周目に最初の計測ラップが刻まれることとなったが、なんとここで齋藤真紀雄が 1 コーナーでグラベルストップしてしまう。

この段階では、KENTARO がただひとり 1 分 57 秒台を切る 1 分 56 秒 641 を刻んでいたものの、その他は 57 秒台という状況だったが、この齋藤の車両回収のため午後 1 時 34 分に赤旗が提示され、各車出鼻を挫かれる形となったが、中断は約 5 分ほど。セッションは残り約 10 分での再開となった。

この中断後、トップでコースインすることとなった植田正幸が、再会直後に 1 分 57 秒 159 を刻んで 2 番手に浮上も、すぐさま DRAGON が 1 分 56 秒 457 でトップタイムを更新。しかし、直後に今田信宏が 1 分 56 秒 290 でモニターのトップに躍り出ることとなったが、上



位陣と離れた位置でタイムアタックしていた KENTARO が 1 分 56 秒 080 を叩き出し、今田を抑えて再び首位に返り咲く。

続いて各車 5 周目に入ったが、ここでは今田が 1 分 56 秒 145 にタイムアップもポジションは 2 番手のまま。背後では今大会初参戦の清水康弘が 1 分 56 秒 170 で 3 番手に浮上、さらに KEN ALEX が 1 分 56 秒 415 で 4 番手に続くが、このすぐ後に KENTARO がただひとり 56 秒を切り 1 分 55 秒 650 へとさらにトップタイムを更新し他を圧倒する。

この後、上位陣では植田が 1 分 56 秒 376、1 分 56 秒 148 とタイムアップを続け 4 番手にポジションを上げた他、今田、清水もベストタイムを更新するも、55 秒台には届かず。結局 KENTARO がトップタイムを譲らず、午後 1 時 50 分にチェッカーが提示されることとなった。

この結果、第 11 戦では KENTARO がポールポジションを奪い、今田、清水が 2～3 番手。これに植田、KEN ALEX、DRAGON が 4～6 番手で続き、セカンドベストタイムで決まる第 12 戦でも KENTARO がダブルポールポジションを獲得した他、今田、清水、植田、KEN ALEX とトップ 5 までは第 11 戦から変わらず。6 番手には赤松昌一朗が食い込んでいる。

